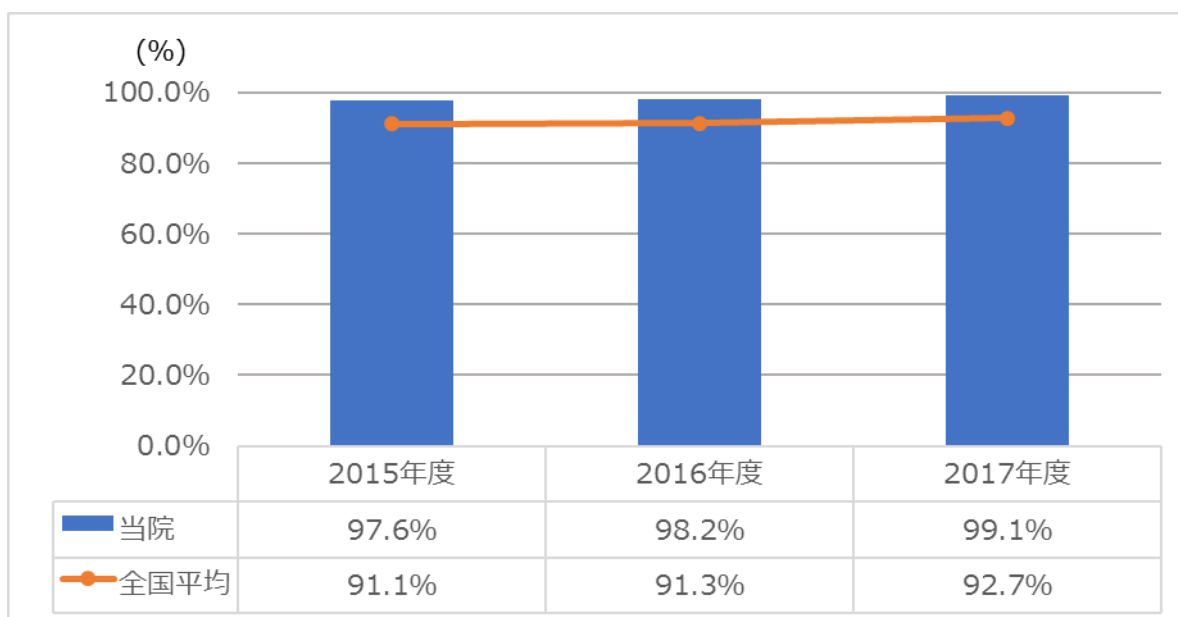


指標 9 胆嚢炎・胆石症に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術率



<定義>

分子	分母のうち、腹腔鏡下胆嚢摘出症例
分母	18歳以上の胆嚢炎・胆石症に対する胆嚢切除症例（周産期、産褥期、出産は除外）
期間	2015年度～2017年度（1年毎に集計）
対象	上記期間の退院患者
値の解釈	高い方が望ましい

<解説>

胆嚢摘出術については、当院では患者さんの身体への負担が少ない腹腔鏡手術に積極的に取り組んでおり、良性胆嚢疾患（胆石症、胆嚢炎、胆嚢ポリープ等）に対し年間120例超の胆嚢摘出術が施行されていますが、そのうち99%に腹腔鏡下手術が施行されています。傷も小さく早期の社会復帰が可能です。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIPにおける計測結果）